

居酒屋で"もうかる漁業"

三重・尾鷲の小型定置に参入

ゲイト 衰退を止め、漁師増やす

飲食やヘルスクエアなど多角的な事業を展開する㈱ゲイト(本社・東京都墨田区、五月女〈そごうとめ〉圭一社長)は14日、同社が経営する都内の居酒屋「くろきん虎ノ門本店」で会見し、三重県の定置漁業(小型)に参入することを発表した。来月後半にも水揚げを開始する。尾鷲市の加藤千速市長も同席した会見で五月女社長は「漁業の衰退は農業の比じやなく、早く手を打たないと間に合わない。漁師を増やし、おいしい魚を東京に届ける。本気で」と、水揚げした漁獲物を自社の居酒屋で利用するなどもうかる漁業の実現に意欲をみせた。

小型定置網は、共同漁業権の中で利用されていなかったものを、地元・JF三重外湾漁協の准組合員となり営む。廃業した漁師の船を購入するなどの水揚げを想定している。



加藤市長(左)と会見に臨む五月女社長

る。

漁獲物は当面、尾鷲市内の市場に全量の水揚げし、消費地には高品質

産物以外の三重の食材とともに自社物流網を通じて東京の店舗などへの配送を目指す。産地を元気にし、消費地には高品質

状態を知らない東京の人に

を。加藤市長も「市民が豊かな生活を営める場所になるには基幹産業である水産業の活性化が不可欠。市としてもしっかりと応援し、尾鷲市を水産業で活気のある都市にしたい」と述べ、ふるさと納税の返礼品「尾鷲まるごとヤイヤ便」などもPRしながら、市の活性化に強い思いを語った。

。

念するが、将来的には水産物の流通を通じて、消費地には高品質

産物以外の三重の食材とともに自社物流網を通じて東京の店舗などへの配送を目指す。産地を元気にし、消費地には高品質

状態を知らない東京の人に

を。加藤市長も「市民が豊かな生活を営める場所になるには基幹産業である水産業の活性化が不可欠。市としてもしっかりと応援し、尾鷲市を水産業で活気のある都市にしたい」と述べ、ふるさと納税の返礼品「尾鷲まるごとヤイヤ便」などもPRしながら、市の活性化に強い思いを語った。

。

実態を見せることも大切」と考え、すでに半年間で2000人の取引先などを現地に通じていくなど、漁業への参入を果たすと同時に実態を多くの人に知らせることも力を入れていく。

。